

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(53)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(53)—

1. 始めに

前報(52)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回もピアノ協奏曲です。

CBS D37267

モーツアルト ピアノ協奏曲 25 番

ピアノ協奏曲 5 番

マレイ・ペライア (ピアノ)

マレイ・ペライア指揮イギリス室内管弦楽団

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

CBS 盤ということで、Columbia、逆相、第 4 時定数 Low で聴いていきます。

前報(46)と同様、ペライアとイギリス室内管弦楽団のコンビで、弾き振りの演奏です。

前報(46)と同様、ペライアの演奏は情緒に流されず、端正でかつちりした構成でよくまとまった演奏です。イギリス室内管弦楽団もペライアの指揮の下、爽やかな演奏です。

3. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E の導入の交換などの

総合的な効果として、前報(46)同様、ペライアとイギリス室内管弦楽団のコンビの音楽の構成の進め方がよく分かりました。

以上